



## 華やかに新年を迎える

シルバー人材センターが門松としめ飾りを寄贈・12/23 No.6

庄原市シルバー人材センターしめ飾り門松同好会の会員の皆さんが、約1時間かけて、市役所本庁舎に門松としめ飾りを設置しました。正面玄関の両脇に設置された門松は高さ約2メートルで、松や竹、南天などできれいに飾られていました。

この門松としめ飾りは、竹やわらなどの材料の調達から作成まで、会員自らが行います。とりわけしめ飾りについては、苗の植え付け、刈り取り、乾燥まで行い、10月ごろから作成に取り掛かります。

ことしも立派な門松やしめ飾りが飾られ、華やかに新年を迎えることができました。



▲しめ飾り門松同好会の皆さんが門松を設置

## 一足早く書き初めに挑戦

冬休み子ども書道教室・12/26 No.5

比和自治振興センターで、冬休み子ども書道教室が行われました。年末の開催でしたが、少し早い書き初めに、町内の小学生7人が参加しました。

参加者は、おのおのが書きたい文字や言葉を自由に選び、講師の谷口直美さんの指導を受けながら書きました。「止め」「はね」「払い」などの基礎を中心に、きれいな字を書くためのアドバイスをもらい、一文字ずつ丁寧に書き上げました。

参加者は、「帰ったらお婆ちゃんに見せたい」と、うれしそうに話していました。



▲真剣な表情で書き初めを行う子どもたち

## 伝統のしめ縄で新年を

総領町稲草西自治会 しめ縄づくり・12/8 No.2

10年以上続く稲草西自治会恒例のしめ縄づくりが、石原行雄さん(総領町)を講師に迎え、稲草西自治振興会館で行われました。

近年、農業人口の減少や機械化にともない、しめ縄の材料となる「稲わら」を手に入れるのが難しくなっていますが、石原さんは、貴重なわらを町内の農家から入手し、はかまを取るなど手間隙かけた準備をしています。

参加者は、慣れた手つきで縄を左にない、しめ縄を次々に完成させていきました。そして、自分たちでつくったしめ縄を手「正月に飾るのが楽しみ」と笑顔で話していました。



▲参加者は慣れた手つきで縄をなつた

## 災害支援の連携を強化

連携協定書調印式・12/15 No.1

庄原市社会福祉協議会と庄原青年会議所は、「災害時における被災地支援に関する連携協定」を、木山耕三市長を立会人として締結しました。

この協定は、平成30年7月豪雨災害発生時に、同協議会の「庄原市被災者生活サポートボランティアセンター」初動時から、お互いに連携して被災者支援に取り組んだ成果を元に、今後も継続的に連携し被災者支援に当たることを目的としています。

今後は、同会議所から同センターに対し、要請に基づいた人的、物的、技術的な支援が提供されるようになり、同協議会は、経験や成果を生かし、お互いに協力しながら安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。



▲左から庄原青年会議所 三宅弘人理事長、木山耕三市長、庄原市社会福祉協議会 山内文雄会長

## 年に一度のミュージックフェス!

東城ミュージックコンサート・1/20 No.8

庄原市東城文化ホールで、東城ミュージックコンサートが開催され、延べ500人が参加しました。

6回目となる今回は、東城地域を中心とした15グループがバンド演奏やエレクトーン演奏、ダンス、けん玉パフォーマンスなどを次々に披露しました。コンサートは8時間にも及び、幅広い年齢層の出演者が、仮装や演出、曲のアレンジなどで会場を盛り上げました。また、会場内では地域の有志の方が手作りディナーを振る舞い、来場者はコンサートの合間に豪華な食事も楽しみました。

実行委員長の石原伸男さんは「大勢が来場し、大いに盛り上がった。イベントを続けていけるように、これからもみんなで協力していきたい」と話していました。



▲個性的なステージで会場を魅了した

## みんなで列車をお出迎え

芸備線 市内区間で運行再開・12/20 No.7

平成30年7月豪雨の影響で運転を見合わせていたJR芸備線備後落合駅から備後庄原駅の区間で、約5カ月ぶりに列車の運転が再開されました。この日にあわせ、西城紫水高校の生徒や西城保育所の園児、地域の皆さんなど約100人が備後西城駅のホームに集まり、始発列車を出迎えました。

西城紫水高校の生徒たちは「おかえりなさい 芸備線」と書かれた幕を準備し、列車の到着を楽しみに待っていました。

訪れた人は「駅のホームに溢れんばかりの人がいて驚いた。今後も多くの人を乗せて運転してほしい」と話していました。



▲列車の到着でホームが沸いた

## 子どもたちが楽しく遊ぶ

永田ふれあい自治会 遊具のお披露目・12/22 No.4

口和町の永田ふれあい自治会が、地域のクリスマスイベントにあわせ、腐食しにくい遊具(滑り台、ブランコ、のぼり棒)のお披露目をし、大人から子どもまで40人が参加しました。この遊具は、地域内にある「いきいき広場」に、庄原市自治振興区活動促進補助金を利用して整備されたものです。

お披露目の後、早速子どもたちは、自分たちの好きな遊具で楽しそうに遊んでいました。特に滑り台は人気で、子どもたちは何回も滑っていました。

遊具で遊んだ後、世代間交流会が行われ、老人部の皆さんと子どもたちで広場の花壇への花植えやクリスマス会を楽しんでいました。



▲人気の滑り台には子どもたちの列ができた

## 雪上じゃなくとも熱戦

高野町雪合戦大会・1/12 No.3

第20回高野町雪合戦大会が高野小学校体育館で開催され、一般の部・ジュニアの部合わせて7チーム64人が参加しました。この大会は広島県雪合戦大会の前哨戦として毎年開催され、授業で雪合戦に取り組む高野小学校は今回も参加しました。

どちらの部も総当たりのリーグ戦を行い勝敗を競いました。積雪に恵まれず体育館で模擬球を使用していた試合でしたが、元気の声援と体育館シューズが擦れる音が響き、激しい攻防が繰り広げられました。

ジュニアの部優勝チーム「キセキ」のキャプテン井上心愛さんに優勝の秘訣を聞くと「すごいスピードで飛んで来る球の恐怖に負けないように、みんなで練習を頑張ったこと」と話していました。



▲試合開始!